

遠い昔から、川柳なる十七文字が、社会を戯評して大衆の喝采を拍したものである。現代においても川柳は人間社会のあらゆる事象を十七文字に織りこんで世相の喜怒哀楽を的確に表現していく、統計と川柳では釣り合わないかもしれないが、春の陽気に浮かれ出して統計漫歩とぶとりぶらり出かけてみることにしよう。

### ≪統計を生かし明るく郷土伸び≫

人間の智能が最高に発揮され、世の中が無限に発展しめまぐるしく変化しとどまるところを知らないというのが最近の状態ではなからうか。

まつたくアツというまに緑の山野に工場が建ち、雲雀のさえずつていた田畑にはモダンな文化住宅とやらが建ち並んで、久しぶりに郷土を訪れる人は異国にさまようような感じになつて、幼なかりし頃の故郷の山野を胸に浮べ臉を熱くして懐かしい思い出にふけるだろう。

開発こそ人間が自然に挑戦し、これらの人間社会をより明るく、住みよい郷土に育てあげるための人智の結集であり、このために国や、地方自治体などでぼう大な経費を使つていろいろな開発を計画し、諸施策を立案して実行に移しているのである。

この企画立案のための基礎固めに無くてならないのは統計ではないだろうか。しっかりと統計数字を基にして設計された施策によつてこそ、はじめて為政者にも遂行のための確信を深め、一般への納得が得られるのではないかと考える。

ともかく世の中は無限に高度化を目指して躍進を続けていく、そして明るい郷土が明るい家庭の建設が、われわれの幸福のために約束される。

統計マンたるもの緊禪一番大いにハツスルして社会の期待に応えられるような統計の作成のためにがんばろうではないか。

### ≪統計の数字施策に待ったする≫

「課長、懸案の新規事業計画案が出来ました、よろし

くご検討のほどを」ご検討の結果は……「A君、さきほどの事業計画は大変苦心のあとが見られマアママと思われるが、ここの説明が少しバク然としていて弱いのではないかね、もつと基礎となる数字をよく把あくして、現在の状況と、これからのこの数字に対しての伸びとか、その為にはどうすべきかというようなことをもつと深く突っ込んで検討すべきではないかね」あるオフィスでの一場面。

人を納得させるための数字、すなわち≪統計≫、その統計を利用して、これとの比較、さらに累年の統計が示してきた実績、こういつたものが、これからの各種事業や計画を行なう場合の資料として大きなウエイトを占めるのではないか、確たる基礎資料を持たない計画は、ともすればおざなりになつて、ついにはウヤムヤとした結果に終つてしまうことにもなりかねない。我田引水になるかも知れないが統計とは、コトを起すための土台としてゆるぎのないものでありたい。

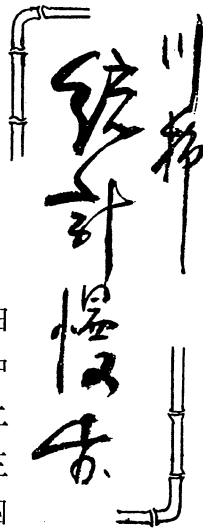
### ≪縁の下ガマにはガマの意地があり≫

春の一夜、子孫繁栄のための自然の摂理に従つて、山野に住むガマも、縁の下に住むガマも好配偶を求めするために、はるばると池に集合し壮烈な戦いを展開して、己に似合つた相手を得て池中に卵を生むのである。

縁の下のガマ君も、自分が選んだこの薄暗い住家を吾が家として、誰に気兼ねするでもなく、堂々と胸を張つて昂然と生き、おぼろ月の一夜自分の存在を主張するため堂々と戦を宣するのである。

統計の仕事は地味である、縁の下の力持だと人はいう、また自分もそうだと思ひ込んでしまう。その先入感が統計マンをして一種のコンプレックスに追い込んではいないか、自分の作りあげた統計が、人間社会の幸福のための礎石として建設の槌音の響きとともに、高らかに謳歌されているではないか、統計に誇りと自信を持つて胸を張つて進んでいこう。

(筆者は県統計課広報資料係長)



(1)



## 昭和38年度事業所統計調査結果速報(概数)が

このほど総理府統計局より公開された。これは昨年7月1日に行なわれた調査の結果の1部として事業所数のみを概数として発表するもの。都道府県、七大都市別の産業大分類および経営種別事業所数のほか、市区町村別の産業大分類別事業所数および経営種別(民営、公営、国営公共企業体)事業所数が主たる内容である。

## 通産省生産動態統計等の改正

通産省は下記について次のような改正を行なった。生産動態統計……鉄鋼関係については、調査事項を「受入、生産、消費、支払、月末在庫」にしばり簡素化、繊維関係については、綿スフ、絹人絹、毛、麻の4種類に分れていた織物関係の調査票の様式を統一して織物統計月報とした。軽工業関係では、最近の金属家具の需要増加を反映するため金属家具月報を新設した。

石油製品需給動態統計調査……最近におけるプロパンガスの需要増大に伴いLPGを調査品目に追加した。機械器具流通統計調査……地方調査機構の負担軽減をはかるため、調査品目を原則として耐久消費財に限り、メールシステムを採用できるように改めた。

## 家計調査

総理府統計局では昭和37年7月から標本設計を全面的に改正し、母集団地域を全国に拡げ、従来の28都市約4,200世帯の規模から、170市町村約8,000世帯に拡大調査方法にも若干の改正を加えたが、今回「拡大改正について」というB5・37頁の小冊子を発行、拡大改正の目的標本設計、新調査方法、経過措置等の詳細について紹介している。

## 国民所得

国民が1年間に得た所得(もうけ)の総計であつて、その所得の処分(消費、投資など)としても表わされ、また1年間の生産活動によつて生み出されたもの(純生産物)の価値ともほぼ一致する。経済の規模や経済の循環のしくみを示すもので、ふつう時価で〇兆円と示される。産業別などに細分されているから、どの部門の経済活動が活発であつたかを知ることできる。同様の方法で県民所得、市町村民所得を作成される。

## 産業連関表とは

国民経済において各産業は密接な関係をもっている。たとえば自動車を百億円分だけ増産するとすれば、鉄鋼、電力、石油などの産業も生産を増さなければならず、労働力も増えねばならない。そしてこれらの産業からさらに他の産業にも影響が波及する。これらの産業相互間の関連を数量的に示し、一つの表にまとめたものが産業連関表である。これを作成するには、あらゆる統計をつき合せ、ぼう大な計算を行なわねばならない。日本全体について国において昭和35年表が間もなく作成されるが地域的にもつくられている。

## 昭和39年度第2次統計主事資格認定講習会

統計関係職員の資質の向上をはかるため下記のとおり実施いたします。縣市町村統計関係職員で資格を持たない者は、この際受講されるようお願いいたします。

受講申込者は市町村に配付の申込用紙で来る6月13日迄に申し込みねがいます。

### 記

実施者 行政管理庁・茨城県・茨城県統計協会

期日 昭和39年6月24・25・26の3日間

場所 水戸市南三ノ丸 茨城県統計館

なお、講師、講習科目及び時間、日程等詳細は後日市町村あてお知らせいたします。

## 関東甲信静統計教育研究協議会の理事評議員会

統計教育の振興と、会員相互の連けいを密にし、研究を助長して、統計思想の普及発達に寄与することを目的とした標記の会議が、去る5月7日・8日山梨県甲府市で開かれ本県から統計課長、教委指導課長が出席した。

## 商品流通調査打合せ会

本県の製造業・卸売業について、県内諸地域相互間あるいは他県との間における商品の流通状況を明らかにし、県内経済の地域的、構造的分析に資することにより、地域開発計画の策定等のための資料を作ることを目的としたこの調査の事務打合せ会が、5月12日から15日まで4日間水戸・潮来・土浦・下館の4ヶ処でブロック毎に開かれた。

☆近着統計資料案内☆

<不 定 期 刊 行 物>

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
<b>総 記</b>			<b>各都道府県</b>		
日本統計制度再建史 I		行政管理庁統計基準局	学校保健統計調査報告	38年	福島県統計課
〃 II		〃	工業統計調査結果表	37年	兵庫県 〃
〃 III		〃	岩手県統計年鑑	37年	岩手県 〃
税務統計書	37年	関東信越国税局	横浜市町別世帯と人口	38年	横浜市 〃
<b>人 口</b>			兵庫県 の す が た	39年版	兵庫県 〃
市町村別人口統計表	25年～ 38年	首都圏整備委員会 事務局	新潟県勢要覧	〃	新潟県 〃
わが国の年次別人口再生産率	大正14～ 昭和35年	厚生省人口問題研究所	岐阜県統計書	37年	岐阜県 〃
簡速静止人口表(生命表)	37年度	〃	工業統計調査報告書	37年	東京都 〃
国勢調査報告(東京都)	35年	総理府統計局	〃	37年	静岡県 〃
〃 (長野県)	35年	〃 〃	愛媛県勢要覧	39年版	愛媛県 〃
〃 (三重県)	〃	〃 〃	熊本県 〃	〃	熊本県 〃
〃 (新潟県)	〃	〃 〃	鹿児島県 〃	〃	鹿児島県 〃
〃 (人口編)	35年	琉球政府統計庁	福島県統計年鑑	37年	福島県 〃
<b>社会・労働</b>			栃木県 〃	37年	栃木県 〃
学校基本調査報告	37年	文 部 省	道民所得推計報告	37年	北海道 〃
文部統計要覧	37年	〃	商業統計表	37年	埼玉県 〃
<b>経済・財政</b>			埼玉県 の 輸 出 産 業	—	〃
外客統計年報	37年	運輸省統計調査部	新潟県概要	38年	新潟県 〃
法人企業投資予測統計調査	39年上	経済企画庁	群馬県 〃	38年	群馬県 〃
<b>産業・交通</b>			兵庫県統計書	37年	兵庫県 〃
ポケット農林水産統計	39年	農林省統計調査部	住民登録人口移動報告	37年	東 京 都
果樹基本統計調査報告書 (第1集)	38年	〃 〃	住民登録による世帯と人口	38年	〃
中小商業基本調査報告書(7)	36年	通産省中小企業庁	事業所統計調査報告	37年	〃
〃 (8)	〃	〃 〃	都民所得推計結果報告	37年	〃
38年の鉱工業生産活動	38年	通産大臣官房統計調査部	<b>茨城県</b>		
素材生産業者調査結果報告	38年	農林省統計調査部	農業協同組合累年比較表	38年	農林水産部農政課
調査統計部要覧	39年	通商産業省	人口動態統計表	38年	衛生部医薬務課
農林漁家就業動向調査報告	37年	農林省統計調査部	38年における伝染病食中毒概況	38年	〃 〃
中小企業総合基本調査報告 (速報)	37年	通産省中小企業庁	県都市統計書	38年	茨城県都市統計協議会
漁業就業者調査	37年	農林省統計調査部	専門部会報告書	38年	県市町村教委連合会
漁業経済調査報告	37年	〃	茨城県農業史(1巻)		茨 城 県
水産物流通統計年報	37年	〃	地方教育費調査報告	37年	教育庁総務課
果樹基本統計調査報告書(2)	38年	〃			



## 人 間 雑 話 (21)

茨城大学教授 塚 本 勝 義

お互に人間である限り、人と人との間には、ある程度の隔りがある。年齢のへだたり、男と女のへだたり、好き嫌いのへだたり、性格のへだたり——と、いくらでも隔りがある。大食漢と小食漢のちがいで、煎じつめれば胃袋の隔りに帰する。全く同じ人間なんて、古往今来たつた一人もおらぬ。ところが人間は、この隔りを忘れて、自分以外の人間を、自分と同じ様に動かそうとする。ここで人間の悲劇が発生する——といった意味のことをキエルケゴオルは述べている。わかり切つたことだが、とかく忘れ勝ちになり易い人間の真実である。人権は平等だが、ガラには隔りがある。新参と古参にも隔りがある。古参から見れば新参は間拔だろうし、新参が古参を眺れば、ずるい奴とも感じられよう。それは当たり前のことだ。自然にそうなるんだ。そもそも腹を立てる方がどうかしている。当たり前のことは当たり前のことをして、冷静に扱つて行くのが本当の生き方だろう。腹を立てるぐらいで取りはずしのきく「人と人との隔り」ではないのだから。

○ ○ ○ ○

あれは凡くらだ、そいつは能力なしだ、こいつは話せない——と片端から人をけなす者がある。どこの職場にもひとりぐらひはこんな偉物がいる。ところで、そういつてるその人物はどこからみても凡くらである。凡くらなのは彼氏の周囲の人々ではなくて、彼氏自身なんだ。すべての人が阿呆に見える人こそ本物の阿呆だと芥川竜之介が言つたのはこのことらしい。

○ ○ ○ ○

田畑の作物にわせ・なかで・おくのことは誰でも知つてるが、人間にもこの三種のあることは案外忘れがちだ。そして早・中・晩の種類別と賢愚の別とを混同し易い。概して早生は気がきいていて、小まめに動き、使つても便利だから、出来がいい人物と判断する。晩生はのつそりしていて小廻りがきかず、とかく間抜けをしがちなので、足りない人物と速断される。学校の先生なんかも、早生を賢い子、すぐれた子にして、晩生を性やや遅鈍などと錯覚する場合もないとはいへぬ。勉強の出来る子の中には早生種が相当いる。

学校時代の優秀児が、世の中に出て大いに伸びるとは限らないが、その原因のひとつに、この早生がある。早

生は早くシンが止まる。30ぐらいでストップすると言われている。あの人は伸びる——と評されていた人が、ちつとも伸びずに姿を消す例が少くない。これはみんな早生種といつて過言であるまい。あの人は見直した、あんな腕があるとは思われなかつた、とたまげられる人は大てい晩生種と見ていい。

早生種の中に賢と愚の二類があり、晩生種の中にも賢と愚の二類のあることは人間解釈の基本として押さえておきたい。くりかえして書くが、早生を賢、晩生を愚ときめてかかる軽卒をしたくない。これは米の場合だが、早生は味が悪く、晩生は美味だという。

○ ○ ○ ○

いつまでも育ちつづける人間の典型として、大衆作家川口松太郎さんが挙げられよう。案外大衆作家には死ぬまで育つ人が多い。吉川英治さんなどもそうだつた。最後まで伸びつづけた。

川口さんは若い頃、直木三十五に、「お前は何をやつても食いつばぐれない男だが、小説だけはだめだから今のうちにあきらめろ」と忠告されたそう。創作が好きでたまらぬ川口さんは、しかし止めようとはしなかつた。といつて自信があつたわけでもなかつたそう。いわば、小説につかれたような具合で書き続けたらしい。人生は皮肉だ。昭和十年、川口さんは第一回直木賞を受けられた。川口さんの才能を否定した直木三十五を記念するために設定された文学賞を、まつ向から否定された男に与えられたのだから正に皮肉だ。否定した直木三十五の方は昭和九年に仏様の仲間入りをしていた。あの世で、川口受賞のニュースを耳にしたとき、直木はどんな顔をしたかしら。川口さんは、どうも直木の先見の明を裏切つたような気がしてたまらず、受賞の日、直木の墓に詣でて、あやまつたそうである。ところで菊池寛は早くから川口さんの才能を高く評価していたという。こうなると専門家の批評もあてにならぬ。優勝絶対の大鵬がコロコロ転げるのも当たり前だ。こんな事実を思うと、われわれは周囲の批評なんか気にかけず、まつしぐらに生き抜くべきだろう。人の批評にひつかかっていると一生自己の持ち味を出せないでしまう場合もあろう、猪突猛進という言葉にも、なかなか好い面もあるように感じられる。